

事後評価報告書(日フィンランド研究交流)

1. 研究課題名:「カーボンナノ材料の欠陥構造研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:独立行政法人 産業技術総合研究所 ナノチューブ応用研究センター
研究チーム長 末永 和知

2-2. フィンランド側研究代表者:ヘルシンキ大学 材料物理学部門
講師 Arkady Krasheninnikov

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

代表者は、低速電子顕微鏡による軽元素化合物の高分解能非破壊測定に成功しており、炭素材料の欠陥構造の理論研究で著名なフィンランド側の研究者との連携により、欠陥構造の制御への道筋をつけたことは高く評価される。また、その成果が Phys. Rev., Nature, Nature Communications 誌などに掲載されている。

(2)交流成果の評価について

国際交流の事前打ち合わせを行うなど、着実な計画を練りつつ、特に若手を中心に活発な交流がなされた。また、委託研究費の一部をこの連携のための実験費として使用し、交流の成果を高めたことも成果を高いものとした。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

日本側の代表者による非破壊的低速高分解能電子顕微鏡技術と、フィンランド側の欠陥形成に関する理論家との協力体制によって始めてなしうる、炭素材料の欠陥構造の研究が国際連携の成果としてなされた。若手研究者をその連携の主役とし、中堅研究者がまとめ上げるという仕組みがこの国際共同研究を高い成果に結び付けたものと高く評価する。